

高齢者施設においてボランティア活動をするための歌体操研修講座

歌体操介護予防市民塾

〒564-0062 大阪府吹田市垂水町 3-29-2-506

助成事業の概要

1. 実施目的

急激な高齢化が進む中で、認知症者も同じように増加している。多くは高齢者介護施設において生活している。この方々の生活の中に、心の癒しの部分に働きかけ、笑顔を引き出す。昔の懐かしい童謡や歌謡曲に合わせてたのしく体を動かし、心と体をほぐす活動である。

2. 吹田市内 17 ヶ所の高齢者介護施設に、原則月 1 回 2 ～ 3 名のチームで訪問活動をしている。

事業の成果

高齢化が進む中で、高齢者介護施設で生活するのは、身近な問題であり、現在それなりの健康寿命を生きている方々にとっても、他人ごとではない。この施設で生活することは認知症者も含めて相当長期間にわたることも多い。人生の最後の期間をかなり長期にわたってこの施設で過ごすにあたって、その生活はどんなものか、現在の自分たちには、想像できない部分がある。

介護保険によって、基本的な生活はサポートされているが、十分でない予算や、激務による職員の消耗等あり、極端に言えば基本的な生活以外まで手が届かないのが現状であると思われる。

ボランティアの出番は利用者の方々が少しでも外部の人と接し、心と体を癒すような活動を展開することだと思っている。その成果については、直接施設利用者に聞くとかは非常に難しい面があるので、施設管理者や実際に利用者に接している

職員から聞く方法しかないと思っているが、利用者の表情や態度から推察すると、成果は数字には表せないが、大きな成果が出ていると確信している。

一方、この活動は元気な高齢者が、そうでもない高齢者に対して心と体を使い一緒になって元気な暮らしを支援するものである。ボランティアの方々も時間の経過に従い、サービスを受ける側回ってしまう現実がある。従ってボランティアをする人の確保と歌体操をする人の養成がこの活動には欠かせない。

貴会の助成によってこの活動の継続が可能となり、多くの高齢者施設から感謝の意を多く受けている。

各施設や吹田市社会福祉協議会からの歌体操ボランティアの派遣要請は非常に多く、それに対して市民塾としても、十分には要望に応えきれてはいない面が多い。今後この活動を継続し期待に応えたいと考えている。

成果の広報、公表

1. 吹田市社会福祉協議会・吹田市ボランティア連絡会への報告
2. 現在、加藤昌子塾長は「吹田市ボランティア連絡会」の副会長として活動
3. ボランティア団体「心ふれあい SA 吹田」の総会時に成果報告実施

■ 今後の展開

今後、ますます高齢者や介護施設が増える中でこの活動は欠かすことのできない活動であることを自認している。吹田市社会福祉協議会とも連携を密にして、社会の要望に応えたいと願っている。

その基本は、歌体操ボランティアの高齢化に対応し、養成講座を継続発展させ、ボランティアを確保することが、介護施設へのボランティア派遣の源であると考え、活動をしていく。

この活動はボランティアをする方の健康寿命を延ばすことに、大きく貢献している。高齢者が人のために自分の体験と、心と体を使い貢献することは大きな喜びである。そのためにもこの活動を継続発展させたいと願っている。